

I 事業の概要（地域の実情含む）

平成 17 年に旧沢内村と旧湯田町が合併して誕生した西和賀町は、岩手県の南西部に位置し、北は雫石町、東は花巻市と北上市、西は奥羽山脈の分水嶺を境として秋田県に接している。四方を連山に囲まれ、町全体が標高250メートルから440メートルの高原性盆地で、北上川最大の支流である和賀川が町の中央をL字型に流れている。気候は内陸型で、冬季における積雪は2mにもおよぶ豪雪地帯である。

交通は、町南部を東西に秋田自動車道、JR北上線、国道107号線が並行して通り、南北に盛岡市に通ずる主要地方道「盛岡横手線」がある。

今年度、文部科学省委託事業「学校安全総合支援事業」の「いわての復興教育スクール〈内陸〉」に湯田小学校、湯田中学校、西和賀高校の三校が指定され、異校種間で連携しながら復興教育に取り組んだ。

連携した三校がある湯田地区の中心部は川尻地区と湯本地区で、和賀川と数本の支流沿いに40余りの集落がほぼ放射線状に点在している。その多くの集落は土砂災害の危険区域又はその付近である。

このような地域であるため、児童・生徒の発達段階に応じて、地域で予想される様々な自然災害について、基礎的・基本的事項を理解させ、地域の自然環境や安全についての意識の向上を図る必要がある。

また、災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じた的確な判断の下に、自らの安全を確保できる児童生徒を育成する必要がある。

そこで、地域に根付いた子供会活動が活発に行われている湯田小学校を拠点校として、地域住民や行政機関等の協力を得ながら「防災マップの作成」、「湯田小・西和賀高校合同避難訓練」、「湯田中・西和賀高校合同避難所運営学習会」等を実施し、防災教育に取り組んだ。

II 取組の概要

- (1) ◇事業計画に関する小・中・高連携会議（副校長）（6月25日（月））
- (2) ◇第1回西和賀地区防災推進委員会
【会場：西和賀町役場湯田庁舎】
（7月17日（火））
- (3) ◇湯田小・湯田中合同地区長会議
（デジタルマップの活用と地区子供会における防災マップ作成について）（7月18日（水））

- (4) ◇地区子供会（小学生・中学生・保護者・地域住民）による公民館単位での各地区防災マップの作成

◇西和賀高校生活委員会による町内全域防災マップ作成（7～8月）

- (5) ◇中部教育事務所管内小・中学校復興教育研修会

「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を活用した湯田小の公開授業（参加者74名）

（8月29日（水））

- (6) ◇湯田小・西和賀高校合同避難訓練

（9月12日（水））

「地震による土砂災害を想定した避難訓練」を湯田小学校と西和賀高校が合同で行った。西和賀高校全校生徒102名が地域の避難所に指定されている湯田小学校体育館へ避難し、そこで18の班に分かれて、高校生が小学生のまとめ役をしながら、避難所での生活の仕方や、防災に関する話し合いを行った。



（湯田小へ避難する西和賀高校生の様子）



（避難所での生活や防災についての話し合いの様子）

(7) ◇湯田小・西和賀高校合同なかよし登校

(9月13日(木)・10月10日(水))

地域の駐在所の協力を得ながら、湯田小学校の湯本地区を中心に、高校生と小学生が通学路の危険箇所などを確認しながら一緒に登校する「なかよし登校」を行った。



(なかよし登校の様子)

(8) ◇湯田中・西和賀高校合同避難所運営学習会 (HUG) 【会場：湯田中学校】(10月9日(火))

町内在住の西和賀高校生の代表8名が湯田中学校全校生徒(40名)との合同避難所運営学習会(HUG)に参加し、中学生5人、高校生1人の班構成で8班に分かれて活動した。



(避難所運営学習会の様子)

(9) ◇西和賀高校文化祭での町内全域防災マップ展示 (10月)

「いわてデジタルマップ」を活用し、土砂災害危険区域を中心とした西和賀町全体の防災マップ(縦2M×横10M)を生活委員会が中心となり作成した。

町内在住の生徒に、防災マップ上で自宅と危険区域との地理関係を確認させた。

文化祭で展示し、町内からの通学生のみならず、町外からの通学生が、通学路にどのような危険箇所があるのか確認できるようにした。

文化祭後も校内に常設展示し、いつでも町内の危険区域を確認できるようにしている。

湯田小・湯田中もそれぞれの学区内の防災マップを作成し、それぞれの文化祭で展示した。



(西和賀高校文化祭での防災マップ展示の様子)

(10) ◇事業に関する小・中・高連携会議 (副校長)

(12月7日(金))

(11) ◇第2回西和賀地区防災推進委員会

【会場：西和賀町役場湯田庁舎】

(12月17日(金))

(12) ◇事業に関する小・中・高連携会議 (副校長)

(12月26日(水))

(13) ◇県教育研究会「いきる かかわる そなえる」

分科会で発表 (2月8日(金))

III 取組の成果と課題

(1) アンケート結果から

*アンケート対象者 全校生徒102名

① 本事業開始前のアンケート調査(7月)においては、「自分の住んでいるところのハザードマップを見たことがありますか」という問いに「ある」と回答した生徒は、27名だったが、事業実施後に行ったアンケート調査(12月)では「ある」と回答した生徒が倍以上の57名に増えた。これは、西和賀町内在住生徒のほぼ全員に該当する数字である。少なくとも、町内在住の生徒たちは自宅付近や通学路の危険箇所を認識できたのではないかと推察できる。

② 「ハザードマップがあることは知っているが、見たことがない」と回答した生徒は事業前は31名、事業後は35名であった。増加した4名については、それまで知らなかったハザードマップの存在そのものを知ったということが推察され、成果の1つとしてあげることができる。しかし一方で、全校生徒の約半数を占める町外からの通学生

が、依然として自分の住む場所のハザードマップを見たことがないと推察される。

- ③ 「避難所ではどのような立場で行動しますか」という問いに「積極的にボランティア活動を行いたい」と回答した生徒が、事業開始前の61名から事業実施後は75名に増えた。これは、湯田小学校との合同避難訓練やなかよし登校を経験したことで、特に災害時には自分たち高校生は、弱者を守るべき立場なのだということを自覚した結果であることが、生徒の感想文から読み取れる。また、湯田中学校との避難所運営学習会を通して、災害時の避難所の状況や、避難所で自分がどのように行動すべきかなどのイメージをもつことができた結果であると考えられる。

(2) 生徒の感想 (抜粋)

① 湯田小・西和賀高校合同避難訓練

- ・「自分の命を守ることしか今までは考えていなかったが、今回の小学生との避難訓練を経験して、他人や小学生などの弱者を高校生が守っていくということが大切なことだと意識するようになった」
- ・「自分と同じ地区に住む小学生たちとの班での活動だったので、避難場所の位置や経路の確認をすることができた。各家庭での防災グッズについての情報共有もできて、参考になった」
- ・「東日本大震災の時の釜石東中学校と鶴住居小学校の避難のことを思い出しました。私たち高校生が小さな子供たちの不安を取り除いたり、助けてあげられるように普段から防災意識をしっかりとって生活することが大切だと感じた」

② 町内全域の防災マップ作成・展示

- ・「大きくて、迫力がある。西和賀町全体の危険箇所が分かってとても参考になる」
- ・「各地で災害が起きているので、高校生が身近な場所の災害に関心をもつのは大変意義深いのではないか。西和賀町以外から通学している生徒にも地元の危険箇所に目を向けて欲しい」
(以上 文化祭来校者の感想)

③ 湯田小・西和賀高校合同なかよし登校

- ・「普段は意識しなかった危険区域や、危ない歩道の段差など危険な場所を確認しながら登校することができた」
- ・「子供や老人にとっては歩道が狭くて、車がすれちがったりする時に危険な場所があることが分かった」

- ・「災害時に小学生だけで冷静に対応するのは難しいと思うので、自分たち高校生がリーダーとなり安全な行動を取ることが大切だと思った。今回のなかよし登校で、責任感も強まった」

④ 湯田中・西和賀高校合同避難所運営学習会 (HUG)

- ・「避難者のそれぞれの要望に応えていくことが、どれほど大変なことかを実感することができた」
- ・「実際に避難所生活をしたことはないが、もしもそのような事態になったならば、自分から積極的に行動したいと思った」
- ・「避難所運営は様々なことを同時に考えなければならず、非常に難しいと感じた」
- ・「まったく想像ができなかった避難所運営のイメージをもつことができた」

(3) まとめ

- ① 地域内の異校種三校が連携して防災教育に取り組むという本事業の主目的は十分に達成できた。
- ② 町内在住の生徒たちは、町内の自然災害危険区域、避難場所、避難経路等を確認するなど、十分に防災意識を高めることができたと考えているが、町外からの通学生にも自分の住む町のハザードマップの確認方法等を周知し、危険箇所を確認させる必要がある。そのことが将来、生徒たちがこの地域で生活することになろうとも、防災意識をしっかりとって自分の命を守り、地域の防災の担い手となっていくことにつながると考える。
- ③ 近隣の校種が違う三校が連携を図り、情報の共有ができた。副校長間で各校の緊急メール配信を登録したり、実態を話し合ったりし、対応の共通化や三校の交流ができたことは有意義であったので、今後も三校副校長間の情報の共有化を継続したい。
- ④ 今後は「なかよし登校（小学校・高等学校）」の事業は、月1回、毎月10日、5～10月まで「なかよし10（とお）こう」とし、取り組んでいきたい。
- ⑤ 既存の湯田小PTA作成の安全マップをベースにして、町の防災推進委員会が改訂版防災マップを作成し、今年度中に湯田中学校区全戸に配付する予定である。